

ベッドサイド水洗トイレの導入により においや後始末などの問題を解消。



居室に設けられた、手すり付きのベッドサイド水洗トイレ。高齢者に大切な排泄行為を、ベッドの間近でサポートすることができる。

全国的に人材の確保が大きな課題となっている介護の現場。愛知県安城市の特別養護老人ホームひまわり・安城では、最新設備の導入などによって介護スタッフの負担を軽減しながら、長く仕事を続けられる環境づくりがなされています。スタッフの作業負担を軽減した分、入居者に向き合う時間を増やすことで、入居者の満足度向上にもつながるといふ好循環が生まれています。



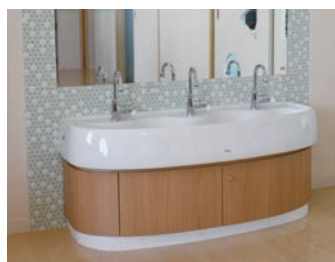
鉄筋コンクリート造、4階建ての建物。1Fには地域交流センターも設けられている。

創意工夫によって日々の介護に要していた負担や時間を減らし、職場環境の向上へ。

介護は「3K」で労働条件が悪いというイメージがありました。そこで、職場環境のソフト面、設備などのハード面の両方からスタッフを支える取り組みが行われています。

これまで日々要していた煩雑な作業や時間を、最新設備などのサポートによってカットすれば、その分は入居者へのサービスに充てられます。例えば、従来のポータブルトイレをなくし、ベッドサイド水洗トイレを導入。これによって、排泄の後始末などの作業と、においの問題を解消しました。また、スマートフォンを活用した最新の見守りシステムは、居室からのコールをスタッフが映像で確認できるため、緊急時の優先順位を判断することが可能に。さらには、上階から1Fゴミ捨て場に直通したダストシュートの採用で、おむつなどのゴミを1日に何度も外まで運ぶ必要がなくなりました。

また、1Fには事業所内託児所「ひよこっこ保育所」を開設し、子育て中のスタッフも安心して働けるようにサポートしています。



ひよこっこ保育所内にある、子ども用の手洗器。



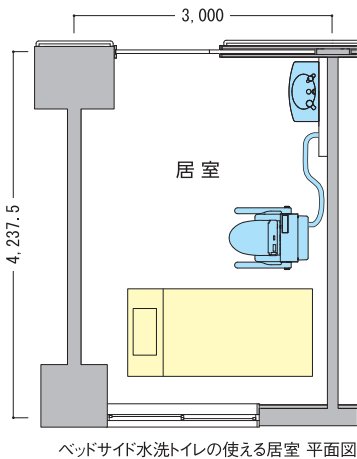
保育所内のキッズトイレ。ぞうの形の手すりを使って、楽しくトイレトレーニングができる。



保育所内にあり、おもしろい洗える幼児用シャワーパン。

特別養護老人ホーム ひまわり・安城

- 竣工年月 / 2017年9月
- 所在地 / 愛知県安城市福釜町下山81-1
- 施主 / 社会福祉法人 愛生館
- 設計 / 有限会社CMC建築研究所
- 延床面積 / 4,964.27㎡
- 定員 / 100名



コストを抑えながら便器の個数を確保できる ベッドサイド水洗トイレ。

ベッドサイド水洗トイレについては、「5年ほど前に作った碧南の施設では、居室内にトイレを設置して障子を開けて使うという、ベッドサイドに近いスタイルを採用。それが進化した形のベッドサイド水洗トイレを国際福祉機器展で知り、導入を決めました。行政の基準では、居室面積から居室内トイレの面積は除外される場合があるため、建築面積が広がってしまいます。しかしベッドサイド水洗トイレなら居室面積とは関係ないため、便器の個数を確保しながら建築費を抑えるメリットがあります。つまり、コストを抑えながら、利便性を向上させられるのです(理事長・小林清彦さん)」。現在、居室の60室にベッドサイド水洗トイレの事前配管を行い、購入した24台はすべて使用しているとのことでした。



移乗や座位の安定のために、前方ボードや背もたれ付きトイレ用手すりなどが備えられたユニットの共用トイレ。



現在の高齢者は、トイレを「便所」と認識しているという考え方に基づいた分かりやすいサイン。



最新の見守りシステムを導入。居室の天井にセンサーを設置し、映像での確認も可能となるため、通常のナースコールとは違って緊急度が判断できる。



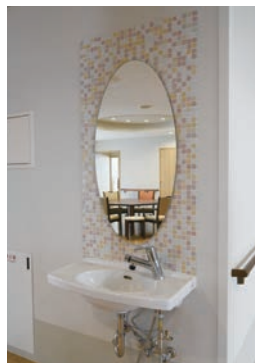
浴室前に設けられた手洗器と汚物流し。スタッフの動線を短くすることを考慮し、脱衣室、洗濯室、汚物処理室を一体化している。



各脱衣室にはダストシュートを設け、ゴミ出しにかかる時間を削減。人手が足りない夜間にゴミを捨てに外へ出るスタッフの姿を見ながら、少しでも効率化できないかと考えた取り組みである。



1Fの「だれでもトイレ」と呼ばれる多機能トイレ。訪れた子育て世代にも対応できるように、おむつ交換台などが設けられている。



共同生活室に設けられた手洗器。鏡の周りに美しいタイルが貼られている。



10人のグループが1ユニット。各ユニットが有する共同生活室は、場所によって雰囲気の異なる空間となっている。

voice 理事長さんからの声

介護は「人がすべて」との想いを大切にしています。



社会福祉法人 愛生館
理事長
小林清彦さん

「何が必要なのか?」という問いを常に抱き、スタッフの働きやすさやサービス向上などの結果につながると経営的に判断すれば、新しい設備も取り入れるようにしています。私たちの業界は、人がすべてです。職場環境も含めて介護スタッフが誇りを持てる仕事にすることを、業界全体で考えていきたい。そのために創意工夫を行い、私たちが取り組んでいるノウハウも公開しながら、みんなで質の高い介護の提供につなげていきたいと思っています。

voice 施設長さんからの声

トイレに座った状態での排泄を支えています。



特別養護老人ホーム
ひまわり・安城
施設長
野村勢津子さん

以前とは違って、今はすべての入居者の介護度が3以上ですからスタッフへの負荷もかかります。そうした中で、日中はできるだけ共用トイレへお連れし、人手の少ない夜間はベッドサイド水洗トイレを利用。高齢者は排泄したいと思うと、すぐトイレへ行きたいものです。それにベッドで仰臥位の排泄は腹圧をかけにくく、筋力も落ちてしまいます。人としての尊厳もあります。できるだけトイレに座った状態の排泄が大切だと考えています。